

令和5年度

第2回 奈良市学校部活動のあり方
検討懇話会

日時:令和5年12月26日(火)

13:00~15:00

場所:奈良市役所北棟2階202会議室

部活動地域移行の議論から 子どもたちの多様な体験機会の確保のための議論へ

方向性

- 豊かなスポーツ・文化活動をつうじて子どもたちの心身の健全な発達と地域コミュニティの発展に寄与する。

視点

- 部活動の地域移行をきっかけに、地域の住民がスポーツ・文化芸術活動などを世代を超えて楽しむことのできる仕組みを創る必要がある。
- 地域の子どもは地域で育て、将来のまちのリーダーとして育成する必要がある。
- 地域住民がスポーツ・芸術活動などを楽しめる核となる場をつくる必要がある。

To Do

- 地域で中学生がスポーツ・文化芸術活動を楽しめる場を提供することから始める。
- 将来的に子どもから大人、高齢者・障がい者 全ての人と一緒に地域の活動参加できる仕組みをどのように構築するかを考える。
- 地域の人が指導者として活動するための情報を提供していく。

総論

中学校の学校教育活動としての「部活動」を学校外でどのように運営していくかという議論にとどまることなく、子どもたちが地域社会の中でいつでも、どこでも、やりたいことができる環境を整備するための議論を進めていきたい。そのためには、それぞれの地域がこれまで育んできた、スポーツや文化活動と子どもたちを結び付けるための仕組みづくりを進める必要がある。

○アンケート調査実施期間 令和5年10月23日（月）から11月17日（金）

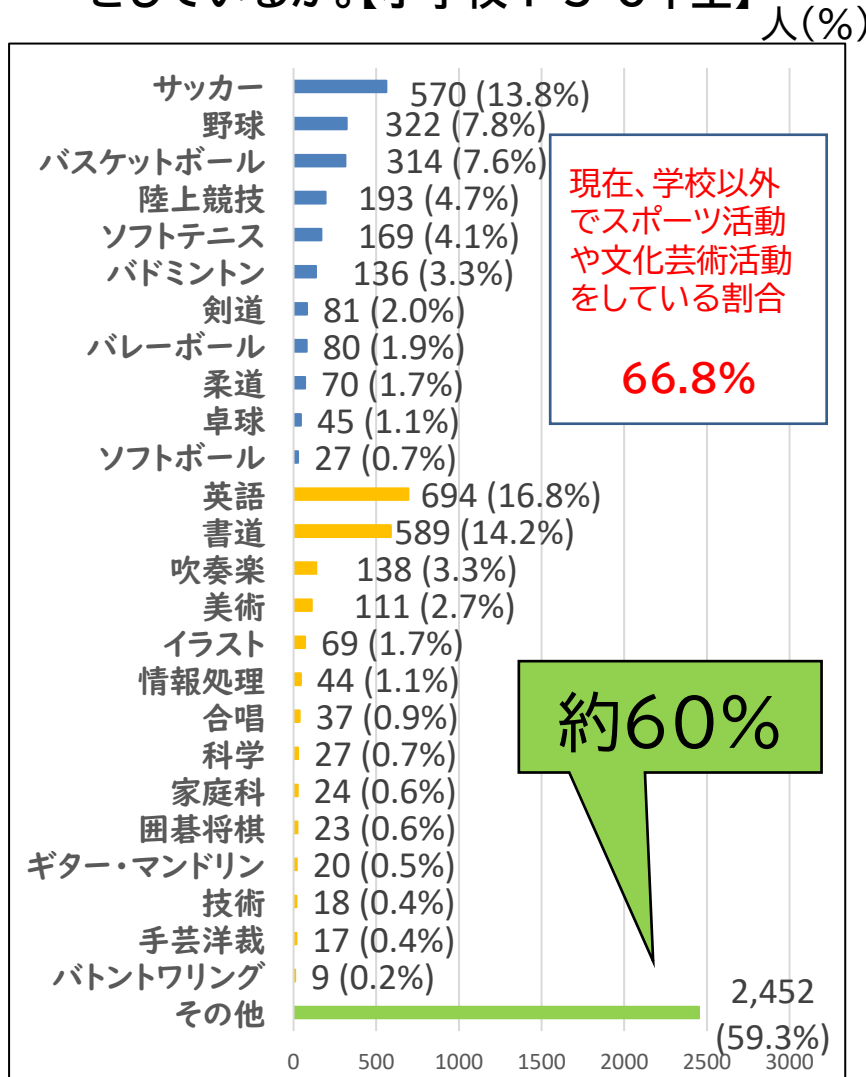
○アンケート調査にて把握したい主な内容

- ・スポーツ及び文化芸術活動のニーズ
- ・部活動地域移行に期待すること
- ・部活動地域移行について感じている不安や課題

○アンケート調査実施状況（Googleフォームにて実施）

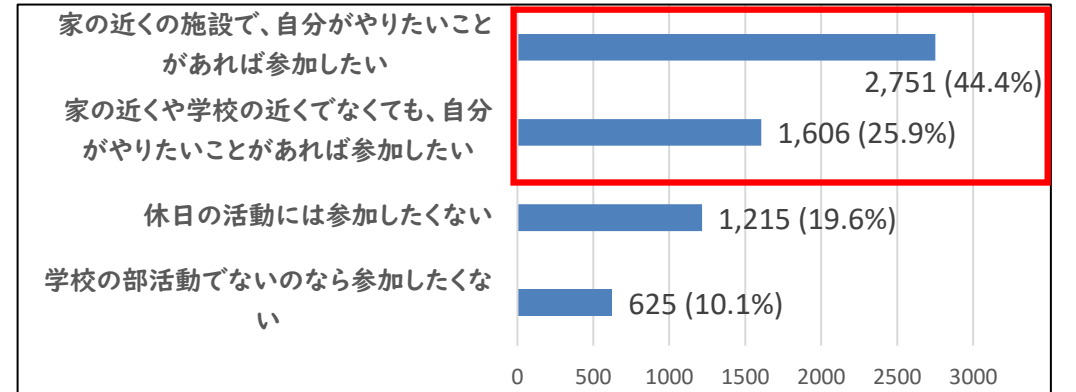
対象	対象人数 （人）	回答人数 （人）	回答率 （％）
小学校4・5・6年生	7,719	6,196	80.3
中学校1年生	2,287	1,956	85.5
小学校4・5・6年生保護者	7,719	3,946	51.1
中学校1年生保護者	2,287	1,558	68.1
中学校教職員	569	350	61.5

Q どのようなスポーツ及び文化芸術活動をしているか。【小学校4・5・6年生】

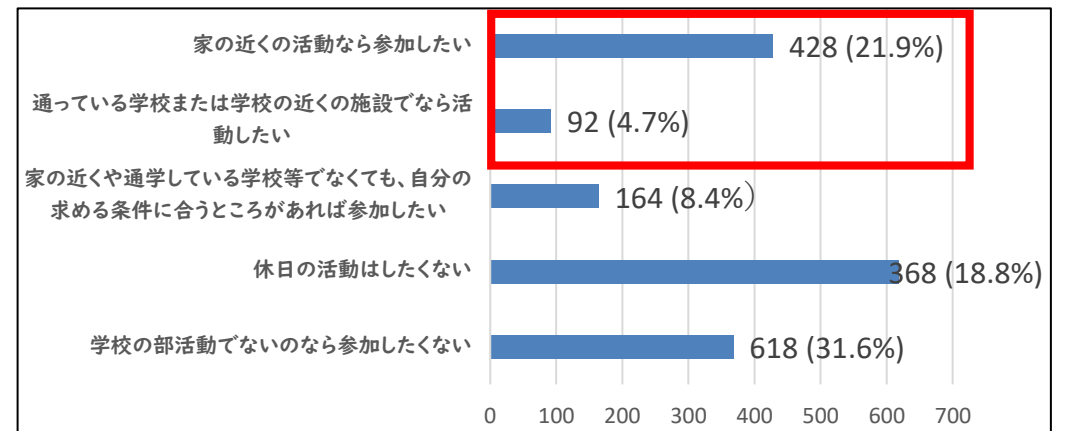


Q 休日の部活動が学校での活動ではなくなった場合、地域で行われるスポーツや文化芸術活動に参加したいか。

【小学校4・5・6年生】



【中学校1年生】



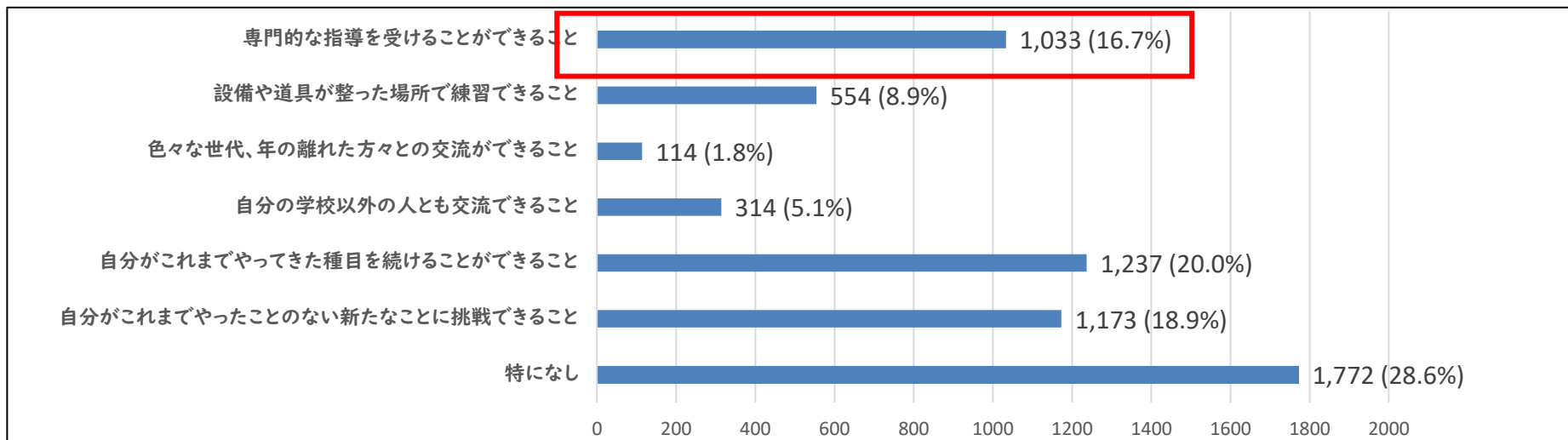
中学校にない部活動の種目を行っている割合

小学生70.3%、中学生49.6%
が参加の意向

Q 休日の地域でのスポーツや文化芸術活動に期待することは何か。

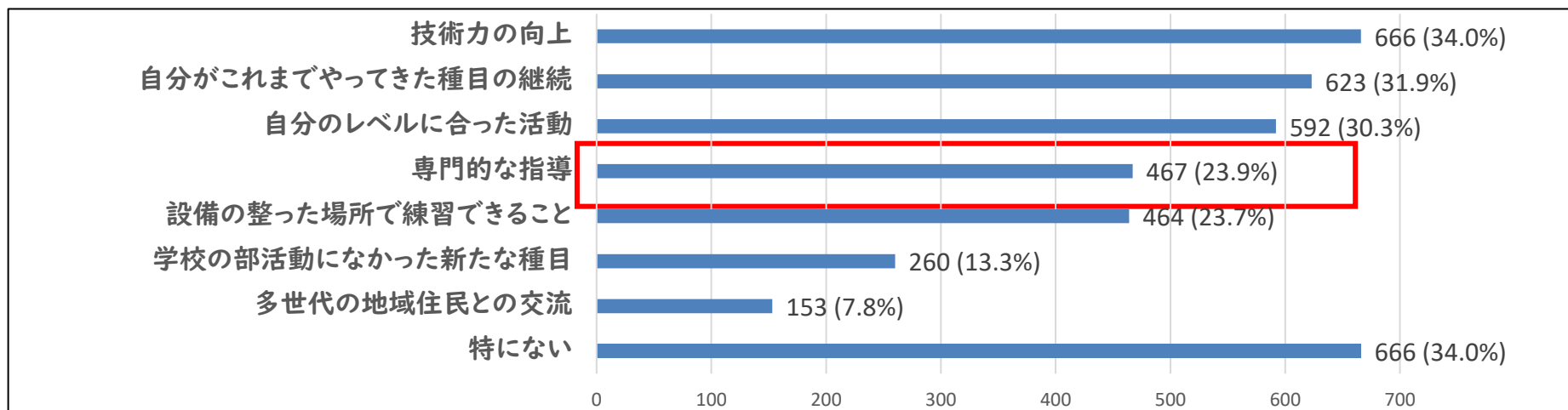
【小学校 4・5・6年生】

人 (%)



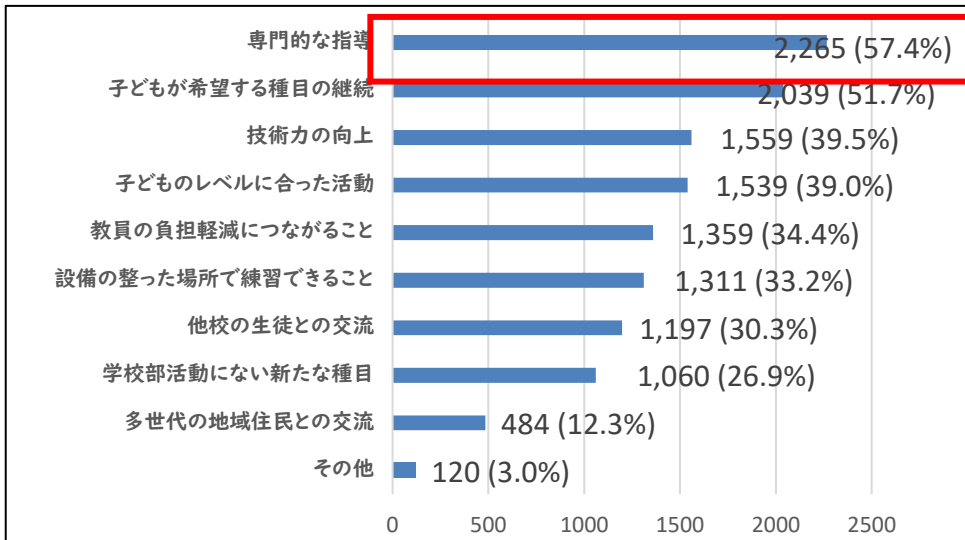
【中学校 1年生】

人 (%)

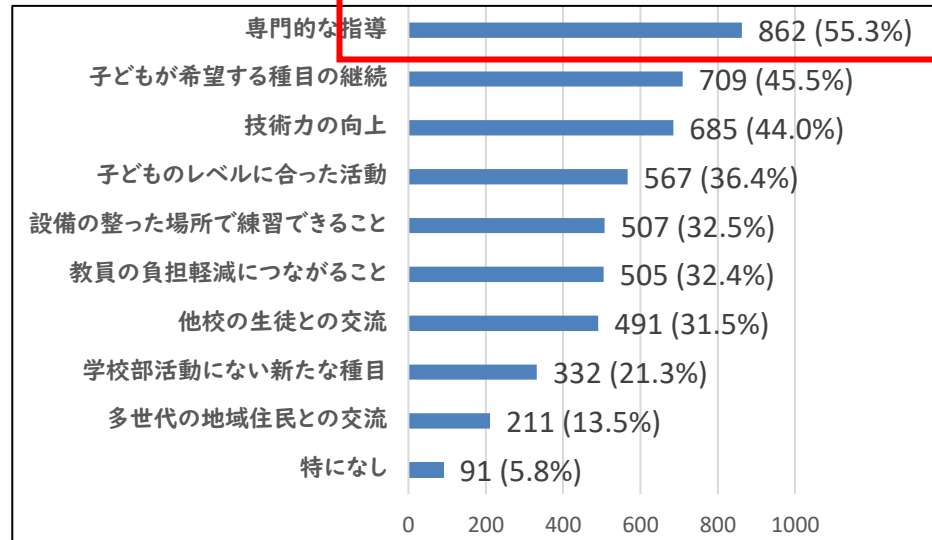


Q 休日の地域でのスポーツや文化芸術活動に期待することは何か。

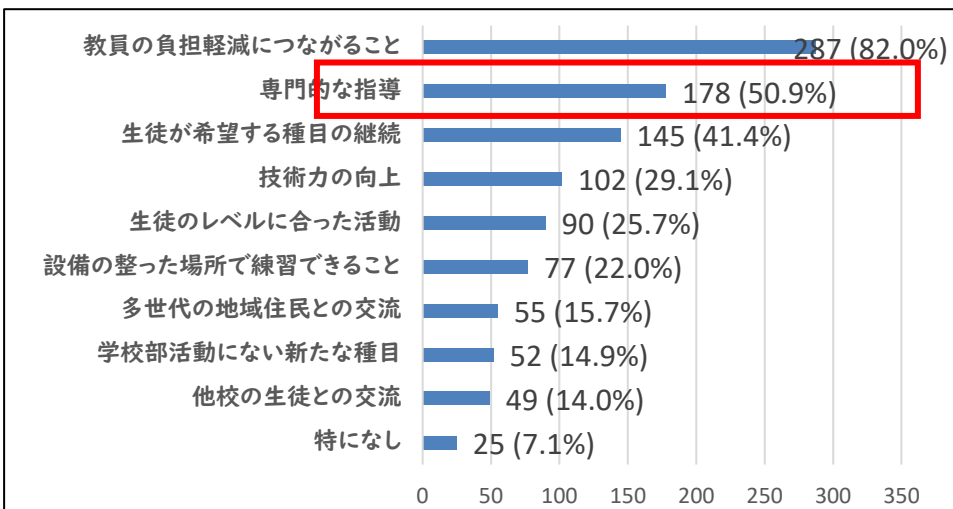
【小学校4・5・6年生保護者】 人 (%)



【中学校1年生保護者】 人 (%)



【中学校教職員】 人 (%)

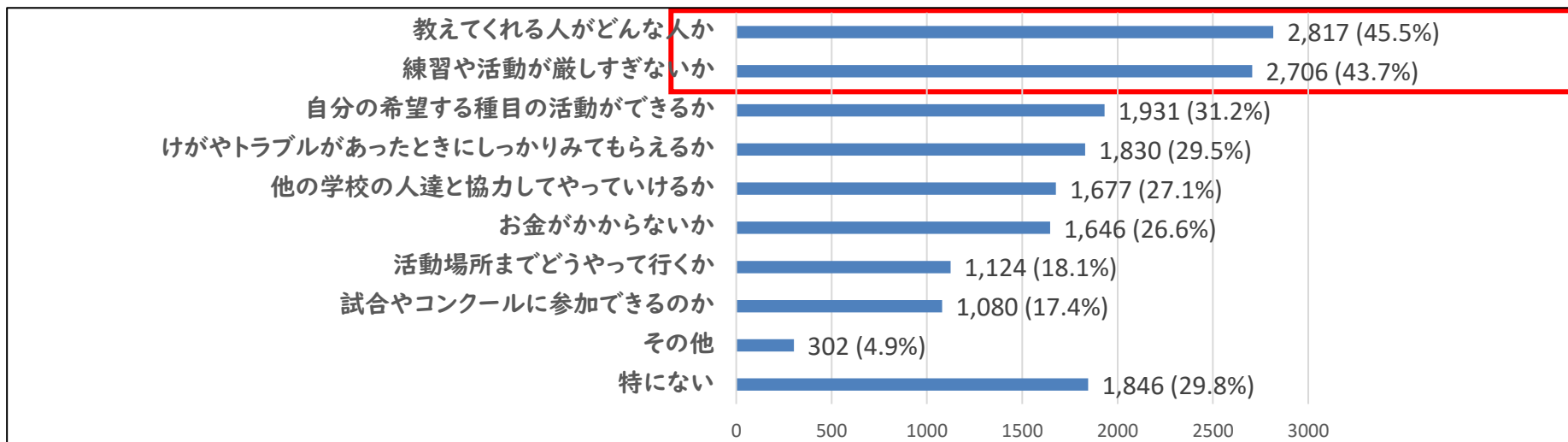


児童生徒・保護者・教職員ともに
「専門的な指導」
に期待する割合が相対的に大きい

Q 休日の地域でのスポーツや文化芸術活動について、心配することはあるか。

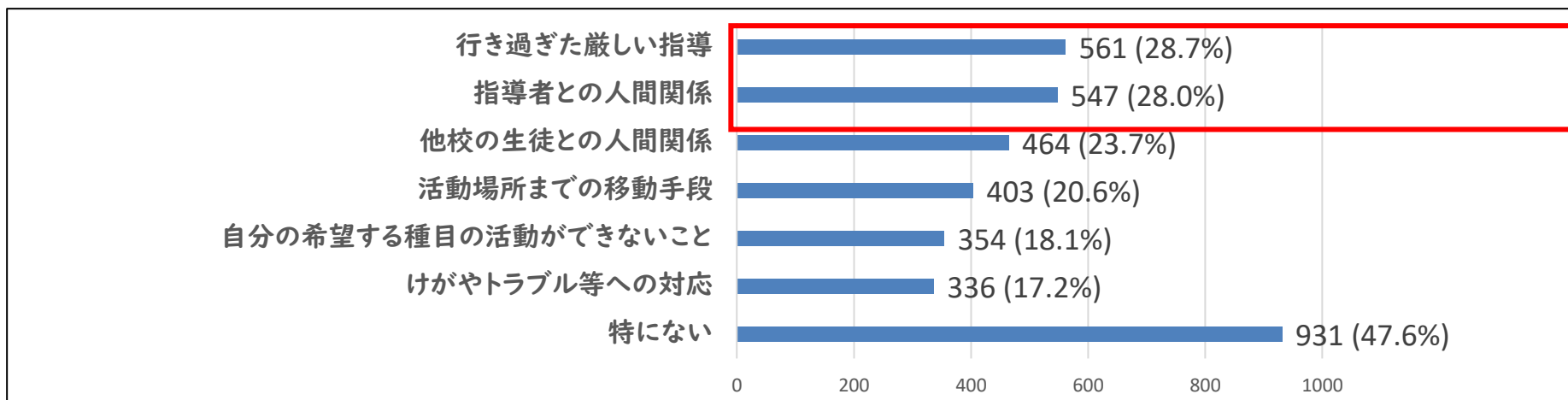
【小学校4・5・6年生】

人 (%)



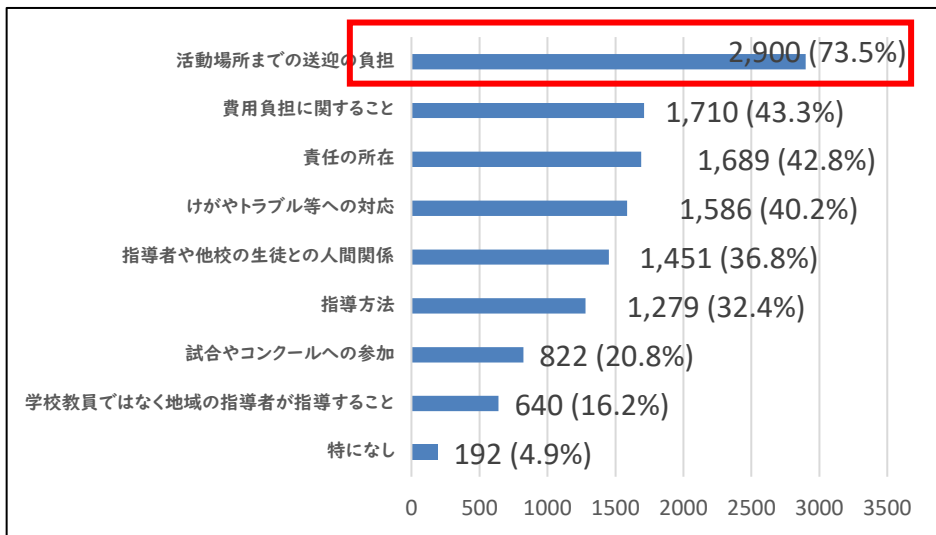
【中学校1年生】

人 (%)

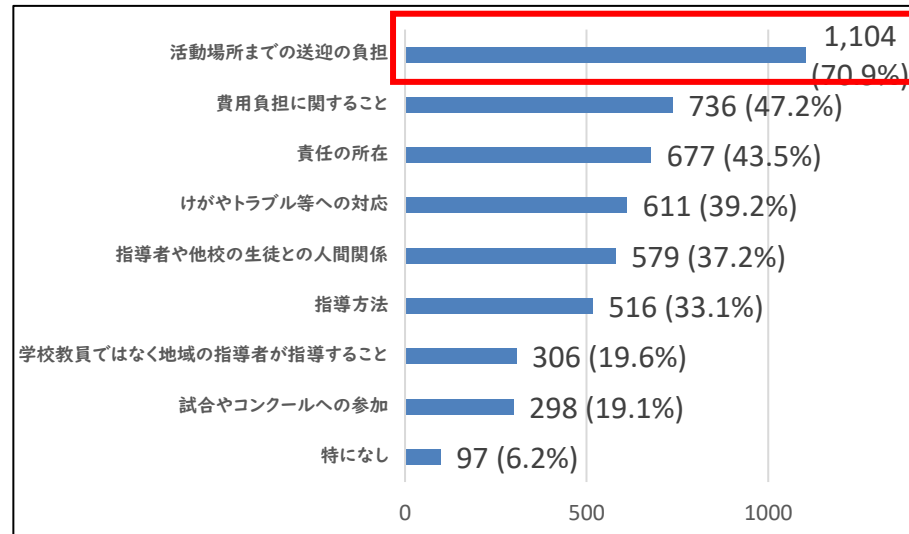


Q 休日の地域でのスポーツや文化芸術活動について、心配することはあるか。

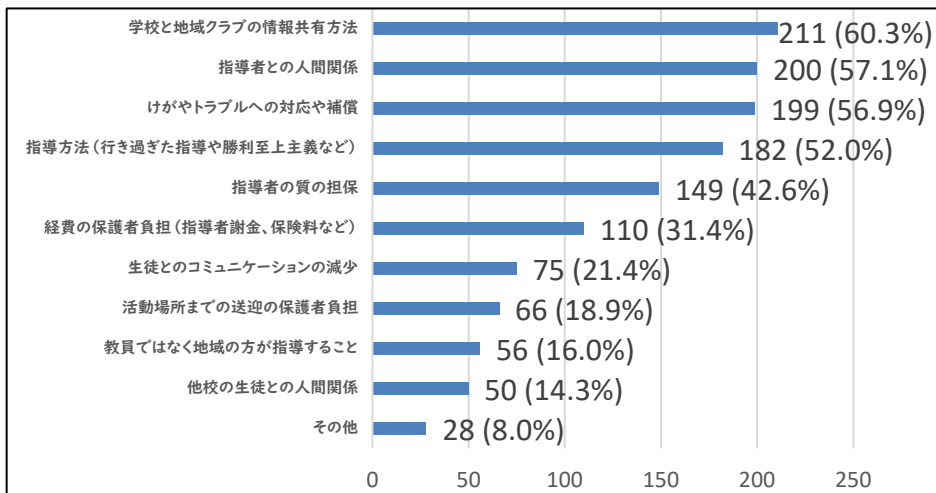
【小学校4・5・6年生保護者】 人 (%)



【中学校1年生保護者】 人 (%)



【中学校教職員】 人 (%)



○地域の指導者がどのような人か
○活動は厳しすぎないか

小学生約 58% 中学生約 39%

○活動場所までの送迎について

**小・中保護者とも約 70%
が不安に感じている**

【児童生徒の活動状況】

小学校4,5,6年

- ・ 学校外でのスポーツ文化活動を行っている割合
→66.8%
- ・ 中学校にない部活動の種目を行っている割合
→59.3%

中学1年

- ・ 地域で行われるスポーツ文化活動に参加したい
→35%
- ・ 平日と異なる活動をしたい
→39.9%

【指導者について】

小学校4,5,6年
中学1年

- <心配なこと>
- ・ 地域の指導者がどのような人か
 - ・ 活動は厳しすぎないか
小学生→約58%
中学生→約39%

小・中保護者
教職員

- <地域クラブへの期待>
- ・ 専門的な指導に期待する
小保護者→57.4%
中保護者→55.3%
教職員 →50.9%

課題

休日の地域の活動への参加の需要がある

指導者の資質

検討事項

- ・ 子どもたちのより細かいニーズの把握
- ・ 地域での活動における実施形態などの組織づくり

- ・ 専門的な指導のできる指導者の発掘
- ・ 指導者の資質向上のための研修

【保護者の懸念】

保護者

<地域移行の心配ごと>

- 活動場所までの送迎について
→約72%が心配

- 地域クラブ費用負担妥当額
→月当たり5,000円未満、
3,000円未満が多い

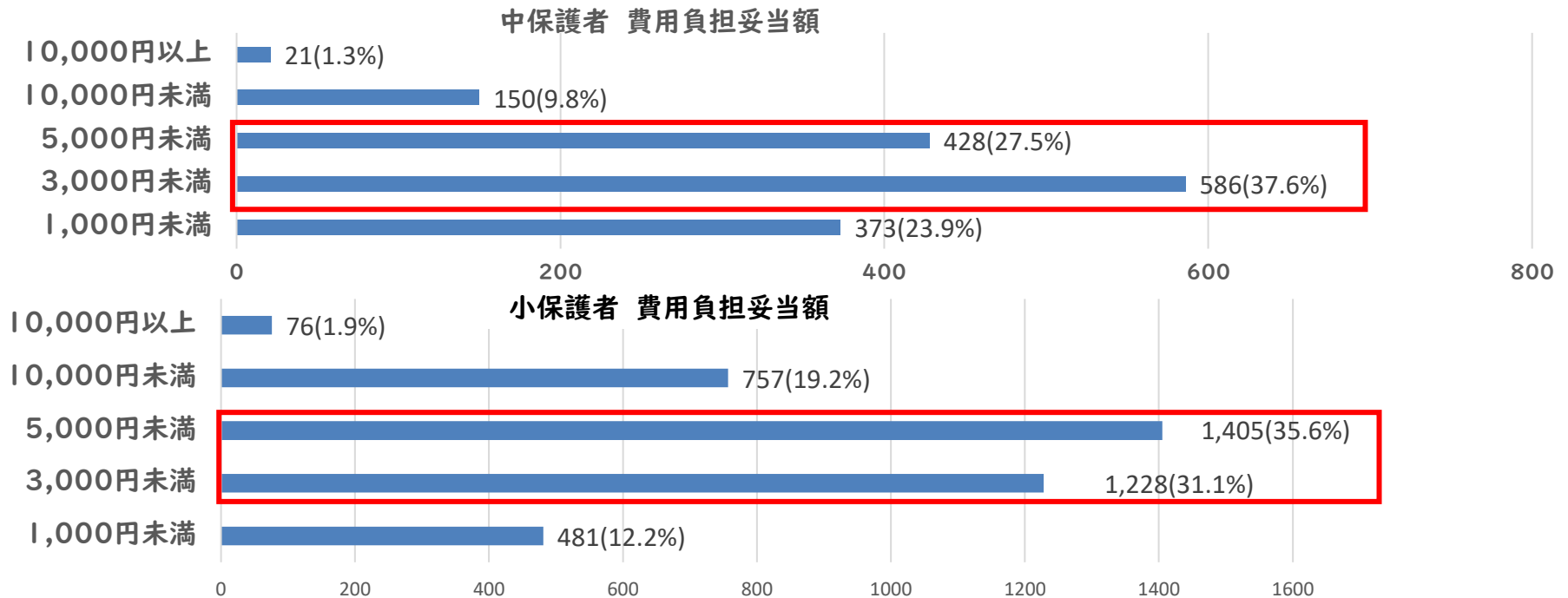
課題

- 送迎の負担
- ひと月の
妥当な費用

検討事項

- 近隣中学同士のゾーニング
- 東部地域における運営方法
- 必要費用の見込み、先例調査

参考



【教職員の実態】

教職員

- <休日の地域での活動における懸念>
 - ・ 指導方法
(行き過ぎた指導、勝利至上主義など)
→約50%
- <期待すること>
 - ・ 専門的な指導
→約51%
 - ・ 教員の負担軽減につながる事
→約82%
- <部活動のやりがい>
 - ・ やりがいがある
→22.6%
 - ・ どちらかというやりがいがある
→18.9%
- <地域での活動への関わり>
 - ・ 関わりたいと思っている
→20%

課題

- ・ 指導者の資質

課題

- ・ 教員の負担軽減
- ・ 地域の活動と教職員との関わり

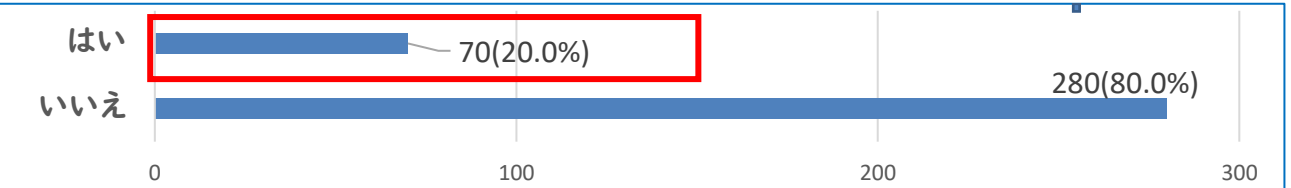
検討事項

- ・ 専門的な指導のできる教員の確保
- ・ 指導者の資質向上のための研修

検討事項

- ・ 平日の部活動の検討
- ・ 関わりたい教員の制度の確立
- ・ 大会の参加制度の検討

学校部活動を地域クラブ等が担うことになった場合、自身が地域の指導者として活動に関わりたいと考えますか。



①少年野球

- ・ボールの大きさ、グラウンドのサイズが違う。
- ・県内で中学生の軟式チームは女子チームのみでは。
- ・場所の確保、指導者確保も難しいと考える。

③陸上

- ・受け入れはできると思う。
- ・練習場所の確保に尽きる。中学校が使えるかどうか。
- ・学校の備品、クラブの備品があり課題もあるかと思うが、中学校の備品を使用できれば良いと思う。
- ・中学校顧問の指導とクラブ指導の違いのすり合わせも課題となる。指導方法を巡って子供が混乱することが一番あってはならない。

②総合型地域スポーツクラブ

- ・卓球、バドミントン、野球、剣道 外部指導者が学校等で中学生を教えている。
- ・卓球は地域外の中学校でも教えている。

④美術(絵画)

- ・講座を公民館の生涯学習活動で開催しているが、現在、中学生の参加はない。
- ・子どもはいろいろなことに挑戦し、適性を見極めることが必要。そのための機会作りが大切で、その子の良い点を伸ばしていくことが必要だと思う。
- ・単に公民館で講座を開催するのではなく、様々な文化活動のラインナップについてのきっかけづくりは学校で行ってほしい。
- ・講座の指導者はボランティアではなく、謝金が伴うもの(できれば公的機関の負担や補助が望ましい)としてほしい。
- ・講座は土日ではなく、平日の放課後が参加しやすい。
- ・事故等の責任の所在をはっきりしてほしい。

部活動地域移行の議論から 子どもたちの多様な体験機会の確保のための議論へ

理念

豊かなスポーツ・文化活動をつうじた子どもたちの心身の健全な発達と地域コミュニティの発展に寄与する。

vision

- ・部活動の地域移行をきっかけに、地域の住民がスポーツ・文化芸術活動などを世代を超えて楽しむ・地域の子どもが地域のスポーツ・文化活動の中で育ち、将来のまちのスポーツ・文化活動の担い手となる。
- ・すべての地域住民が世代を越え、スポーツ・文化活動に親しみ、楽しめる核となる場所が身近に存在する。

Mission

- ・中学生が地域でスポーツ・文化芸術活動を楽しめる場を提供することから始める。
- ・将来的に子どもから大人、高齢者・障がい者 全ての人と一緒に地域の活動に参加できる仕組みを動かす。
- ・子ども、保護者、地域の方に対する広報を積極的に行い、必要に応じて丁寧にニーズ把握する。

Value

- ・地域の実情に応じ、部活動のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、地域による体験格差を解消する。
- ・これまでの「部活動」の概念、特に、何かひとつの競技や文化芸術活動に取り組むだけでなく、ジャンルに捉われず様々な経験を積むことができる環境を構築する。

中学校の学校教育活動としての「部活動」を学校外でどのように運営していくかという議論にとどまることなく、子どもたちが地域社会の中でいつでも、どこでも、やりたいことができる環境を整備するための議論を進めていきたい。そのためには、それぞれの地域がこれまで育んできた、スポーツや文化活動と子どもたちを結び付けるための仕組みづくりを進める必要がある。



- ・子どもたちの多様な種類・分野の経験
- ・学校外での新たなスポーツ・文化芸術のコミュニティの創出
- ・学校の業務軽減

前回提示資料（一部抜粋）

部活動のこれまでの「当たり前」から抜け出し、地域ぐるみで行う新しい「当たり前」の創設

生涯にわたりスポーツ・文化を親しむ生き方の気づき

地域クラブ活動
多様な体験ができる場

自らの適性に気づき
高みへの挑戦

JNO バンビシャス 奈良クラブ 等
トランナーとの協働

- 受け皿母体
- ・学校単位部活動
 - ・拠点単位部活動
 - ・民間スポーツ・文化クラブ
 - ・地域スポーツ・文化芸術団体

- ✓ 地域で多様な活動を楽しめる
- ✓ 学校を超えた仲間の獲得
- ✓ 従前の部活動のようにひとつにこだわらない多様な体験
- ✓ 多様な世代との豊かな交流
- ✓ 引退という言葉がない生涯にわたるそれぞれの文化の愛好

国
方針
補助
県

奈良市

市長部局
教育委員会

活動場所



指導者

組織詳細

具体的組織（イメージ）

【運営主体】

奈良市
地域倶楽部センター
（仮称）

- ・学校教育課
- ・スポーツ振興課
- ・文化振興課
- ・関連各課

コーディネーター

【実施主体】

地域倶楽部
コミュニティ（仮称）

- ・奈良市スポーツ協会
- ・〇〇総合型SC
- ・〇〇文化芸術団体
- ・〇〇スポーツ少年団
- ・指定管理団体
- ・プロスポーツ団体

競技・コンクール

チーム奈良city

多種目・多世代

奈良WELL-BEING
ゆるスポ・ゆる文化

障がい者スポーツ

奈良アダプテッド
スポーツ・文化

【中学校】

※8つ程度の枠組みの設定
※志向を合わせる

コーディネート
・ゾーニング
・ニーズ調整、マッチング

A
中学校

B
中学校

.....

C
中学校

奈良市
学校部活動の
あり方検討懇話会

奈良市
部活動地域移行
方向性

組織づくり方向性
地域・学校周知
実証実験

奈良市(全体として何ができるのか)
部活動を地域移行するための関連部署検討会議

学校教育課・スポーツ振興課・文化振興課・
教育委員会関連課 ミーティング

関係部署 ミーティング

それぞれの課が
地域移行を
「自分ごと」
として考える

部活動地域移行中間組織づくり検討

運営主体組織づくり
(中間組織)
仮称:地域倶楽部センター

学校施設開放検討
奈良市施設の状況
民間施設の活用
介護予防、健康づくり

協力団体
協力企業 発掘
プロスポーツ団体
地域サービスの確認

実施団体養成
仮称:地域倶楽部コミュニティ
(※地域の人がともに楽しむ集まり)

部活動地域移行から未来の地域づくり検討

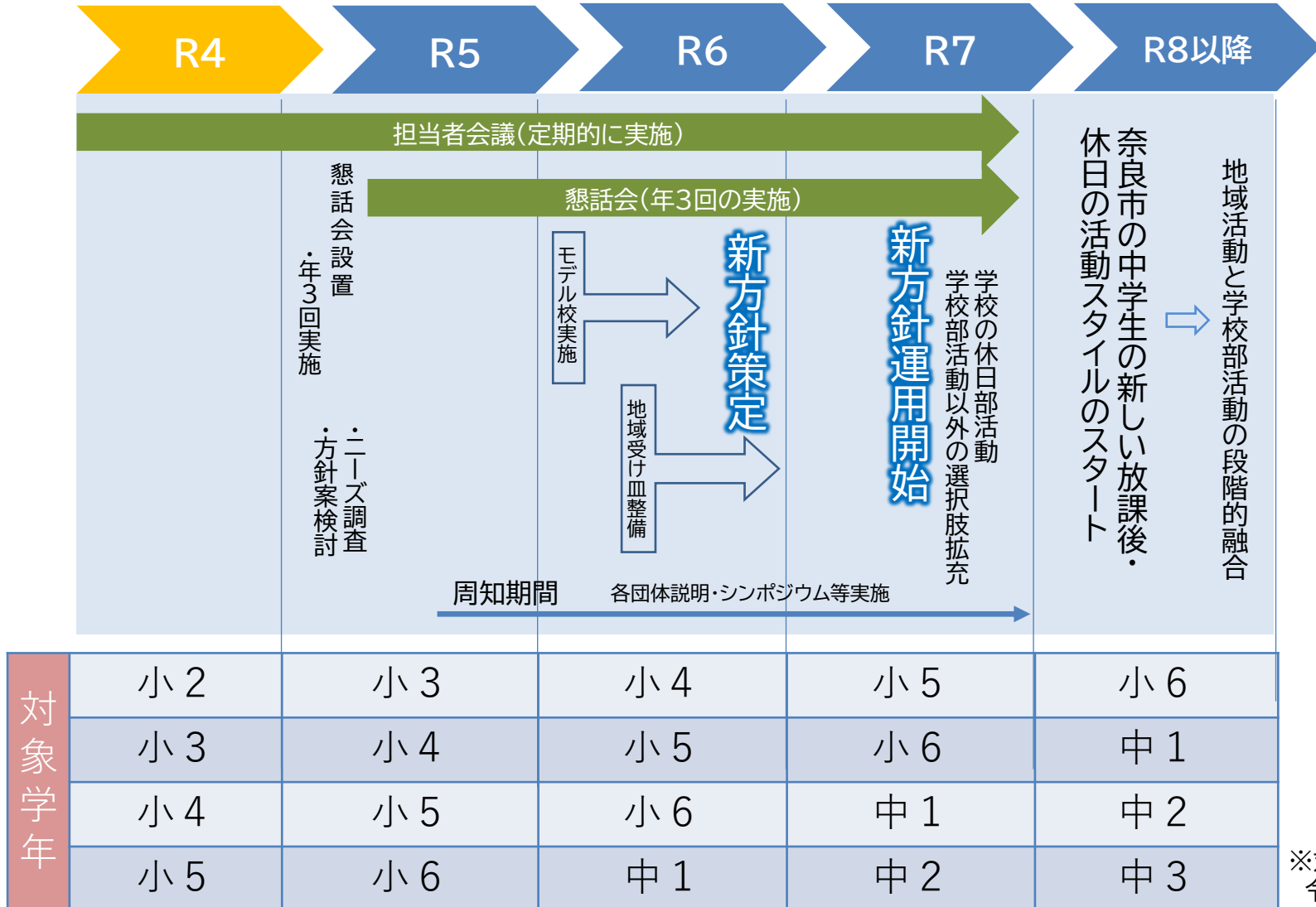
部活動地域移行

多世代、多志向のまちづくり

今後4年をかけて奈良市の部活動のあり方を変革する

- 国のスケジュール 令和7年度までに休日の部活動の地域移行を推進
- 奈良市のスケジュール 国の動向を注視し、将来的に平日の部活動も地域へ移行することを目指す

新・奈良市部活動のあり方に関する方針策定・実施スケジュール



※対象学年は
令和5年度現在